

◎市長（角光雄君） ただいまの小川議員の御質問にお答えをいたします。しっかり答弁をいたします。

文化創生都市宣言については、今ほど小川議員がおっしゃったように、平成19年9月の議会において、小川議員より宣言をしたらどうかという御提言をいただきました。私も、先人から受け継いだ歴史や伝統文化をはぐくみ、夢と希望のある将来を展望したまちづくりを進めるため、必要であると考え、平成20年3月に議決をいただき、宣言をいたしたところでございます。

私は、文化は人の心を豊かにし、都市の力、エネルギーとなるとの信念から、機会あるごとに「文化のないところには人は育たない」、「文化のないところには、企業も人も集まらない」と申し上げてまいりました。特に小さいときから文化の意識を持つことは、感性教育として非常に重要であると考え、市内全小中学校における俳句会を開催し、子供の文化教育を進めているところであります。

また、市が所蔵する絵画や書などを展示する収蔵作品展や、市で開催された祭りなどの写真展、中川一政画伯の出張美術展などを実施し、文化創生の活性化に努めているところであります。私もできるだけこうした文化に参加するために、私なりの努力をいたしております。

いずれにいたしましても文化はまちづくりへの大きな原動力であり、白山市の文化力を生かした新たな魅力と輝きを生み出すまちづくりに、これからも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

文化と産業が共存するまちづくりについてであります。文化は人の生活にかかわるものすべてであり、日々の暮らしや人との触れ合いの中から生まれ、有形・無形問わず人の心にゆとりと潤いを与え、そしてまちに活力と豊かさをもたらすものであります。

本市では、それぞれの地域に根づく多様な文化土壌があり、豊かな自然環境にも恵まれていることから、古くより農・工・商均衡ある発展を遂げてまいりました。長い歴史の中で培われた地域文化と多様な地域資源を生かして、魅力と輝きのある文化創生都市を築くため、文化協会や農業・商工会関係などの地域団体の協力も得ながら、文化と産業が共存するまちづくりに努めてまいりたいと考えております。

そういう中で、それぞれの地域にあります文化協会を、この際統合したらいいんじゃないかというような話が持ち上がりまして、現在、その統合につきまして準備を進めておることが現実であります。こうしたそれぞれの地域の文化というものも産業にも結びついて、これから一生懸命に白山市の文化振興に努力していきたいというふうに思っておるところでございます。

文化政策と都市計画のマスタープランについてであります。現在、策定中の都市計画マスタープランの中で文化の振興にかかわる事柄には、郷土の歴史を学ぶ場としての史跡

の保存、活用や豊かな感性をはぐくむ教育のための学校教育環境の整備、だれもが利用しやすい生涯学習施設の維持、環境整備を推進する施策を考えております。また、地域コミュニティの維持、活性化のためには、過疎化対策や定住人口の確保に向けた施策を推進し、貴重な民俗芸能など、伝統文化の保存・継承に努めてまいりたいとも考えております。

なお、既存の美術館・博物館などの文化施設については、施設の充実に努め、一層の利用促進を図り、市民がより身近に芸術・文化に親しむ施策を推進し、本市の文化力の向上に努めてまいりたいというふうに思います。

せんだっても人間国宝の鶴賀若狭掾の大きな御努力で、すばらしい演劇をさせていただきました。観衆の皆さんにも非常に喜んでいただきまして、この田舎である白山市の中で、こうした東京の中心の芸術を鑑賞できるということは、最高の喜びであるというふうに評価をいただいたわけでもございます。そうした人材等も大いにこの白山市で活躍していただいて、一層の白山市の文化向上に役立てていきたいというふうに思っております。

また、松任駅周辺文化ゾーンあるいは文化芸術振興条例等につきましては教育部長より答弁させますが、私もこの駅前周辺の文化ゾーン、せっかくつくった施設とあの広場、こうしたものの利用については積極的にこれから利用促進を進めていきたいというふうに思っております。そういう面では部長が答弁しますけれども、各団体にも呼びかけ、特に商工会等にも協力を呼びかけまして、これからあの周辺文化ゾーンの利用促進を図っていききたいというふうに思いますし、芸術振興条例等の制定についても、私は小川議員のおっしゃるとおり、そうした制定をしながら、みんな市民が参加して、文化振興というものを図っていききたいというふうに思っております。